

# 信州高島藩 諏訪家廟所



## — 目 次 —

高島藩諏訪家廟所の墓碑と石燈籠……………	1
高島藩諏訪家廟所に葬られた藩主……………	2
高島藩諏訪家廟所の藩主以外の被葬者……………	4
高島藩諏訪家廟所の墓碑……………	6

高島藩諏訪家廟所の石燈籠……………	7～8：11～13
高島藩諏訪家廟所の墓碑と石燈籠地図……………	9～10
藩主・正室の温泉寺以外の葬地……………	14
高野山奥の院諏訪家墓地墓碑配置図……………	17
高野山奥の院墓地の藩主諏訪家の墓碑一覧……………	18
あとがき……………	18



藩 島 高 州 信  
所 廟 家 訪 諏

## 高島藩諏訪家廟所の墓碑と石燈籠

### 温泉寺の創建

高島藩が成立したころ、藩主諏訪家の菩提寺は永明寺であったが、故あって初代藩主諏訪頼水は永明寺を破却し、頼岳寺を創建した。頼水は慈雲寺十四世泰嶺禪師に帰依し、生前に自分の法号をもらったほどで、禪師を招いて城下町に菩提寺を創建する意思があった。しかし、果たさないうちに没し、頼岳寺に葬られた。第二代藩主忠恒（天久院殿）は、父の志を継いで寛永十七年（一六四〇）温泉寺を創建し、泰嶺禪師を招いて開山とした。そして、開基は諏訪頼水、開山は泰嶺禪師としている。

忠恒は、黒印五〇石を寄進し、寺の台所入用はすべて藩の御賄から出ることにしたが、次の忠晴のときに御賄のことはやめて、高一〇〇石地方四つ物成の黒印にかえて幕末まで続いた。

**高島藩主** 寺の後ろに諏訪家墓地がある。この墓地は昭和二年諏訪市長金井清氏の間之交わされた覚書により諏訪市の所有となり、昭和二十七年七月九日に登記されている。その後、昭和四十六年二月十二日に「高島藩主廟所」として諏訪市指定文化財に指定され、今日に至っている。

諏訪家墓地には、第二代忠恒（天久院殿）、第三代忠晴（乾龍院殿）、第四代忠虎（洞虎院殿）、第五代忠林（養賢院殿）、第六代忠厚（觀光院殿）、第七代忠肅（放光院殿）、第八代忠恕（泰俊院殿）、と七代の藩主が葬られている。なお、第九代忠誠、第十代忠礼は神葬に変わり、東京都駒込の吉祥寺に葬られ、温泉寺には墓碑は建てられなかった。

墓地は三段になっており、上の段の中央に第二代忠恒の廟があり、左右に歴代の藩主の墓碑が並んでいる。上の段の左端にある景耀院殿は、諏訪忠虎の嫡子で、襲封前に死去した忠尋の供養碑で、忠尋の奥方は実家に帰っている。上の段にある石燈籠は、藩主や藩主の一族、家老の献上したもので、藩主や藩主の一族の献上したものは、家老の献上したものより大きい。昔は、上の段には藩主の一族と家老しか上がることが許されなかったという。<sup>(2)</sup>

中の段には、御用人らが藩主に献上した石燈籠が並ぶ。そのほか、藩主の妻妾・子女の墓碑や供養碑が並び、これらに献上した石燈籠もあり、やや雑然としている。

下の段に数基の墓碑や供養碑があるが、もともとここにあったかは定かではなく、これらに献上した石燈籠は見当たらない。

石燈籠の並び方は、藩主の前に出るときの席順と同様で、墓碑に向かって、席順の上座の方からR1、L1、R2、L2、R3、L3……と並んでいる。ただし、図の中の記号に●をつけた石燈籠は、本来あったと思われる所から離れており、建立後に動かされている可能性が高いが、何時どのような理由で動かされたかは明らかではない。

なお、各藩主に献上された石燈籠は、それぞれ時代によってデザインが異なっているが、この点に関しては、今後の研究にまつほかはない。

注（1）諏訪教育会『諏訪史』第四卷（別称『諏訪の近世史』）一七八頁。泰嶺禪師「鶏旦記」諏訪市 温泉寺蔵。

温泉寺墓碑「温泉寺開基前因幡州吳窓映林大居士覚霊」。

（2）矢島武雄氏（御用人矢島八兵衛の裔）談。

（一九九九・一一・一 浅川清栄）

## 高島藩諏訪家廟所に葬られた藩主

諏訪忠恒 すわ・ただつね 墓碑E

第二代高島藩主。文禄四年（一五九五）〜明暦三年（一六五七）。上野国群馬郡惣社に生まれる。母は本多康重の娘貞松院。初め忠頼。幼名は竹千代丸、小太郎。慶長十九年（一六一四）大坂冬の陣に供奉。元和元年（一六一五）大坂夏の陣には榊原康勝に属し、小笠原秀政とともに戦い、首一級を得た。元和三年上洛に供奉し、七月二十日従五位下出雲守に叙任。元和七年豊後臼杵藩主稲葉能登守典通の娘を娶った。寛永十七年（一六四〇）九月二十八日家督。諏訪頼水以来努力した新田の開発もようやく成果が上がり、領内の検地を行った。また、慶安元年（一六四八）には、諏訪上社一、〇〇〇石、諏訪下社五〇〇石が朱印地になって分かれたが、拝領高は変わらなかった。明暦三年正月五日江戸で没した。享年六十三歳。温泉寺に葬る。法名を天久院殿一宝要闍大居士という。室は寛文九年（一六六九）二月十四日没。法名月江院殿心岳清鑑大師。江戸芝高輪東禅寺に葬る。

諏訪忠晴 すわ・ただはる 墓碑C

第三代高島藩主。寛永十六年（一六三九）〜元禄八年（一六九五）。八月二十一日諏訪に生まれる。母は永高院小喜多氏。名は右京。明暦三年（一六五七）三月二十五日遺領を嗣ぐ。父の遺言により弟兵部頼蔭・右衛門頼久に各々一、〇〇〇石を分知。同年十二月二十七日従五位下因幡守に叙任。万治元年（一六五八）磐城平藩主内藤忠興の娘を娶る。寛文五年（一六六五）には宗門改を始め、翌年には知行制度を整え、延宝三年（一六七五）には地方知行を廃して藏方知

行とし、藩の支配機構を整えるなど、藩体制の確立に努めた。天和二年（一六八二）七月二十八日越後国（新潟県）頸城郡の検地の労に對して、幕府から家臣らに物を賜った。絵面をよくし「西王母図」などを描き、また、文をよくし、「本朝武林小伝」などを著した。元禄八年三月二日諏訪で没した。享年五十七歳。温泉寺に葬る。法名は乾龍院殿雄巖文穎大居士。室は正徳二年（一七一二）九月九日没。法名長春院殿空室韶華大師。江戸芝高輪東禅寺に葬る。

諏訪忠虎 すわ・ただとら 墓碑D

第四代高島藩主。寛文三年（一六六三）〜享保十六年（一七三一）。忠晴の長男。三月十五日江戸に生まれる。母は内藤帯刀の娘。名は右京、彰往軒と称した。延宝六年（一六七八）十二月二十八日従五位下安芸守に叙任。貞享四年（一六八七）四月越前松岡藩主松平中務大輔昌勝の娘を娶った。元禄八年（一六九五）四月二十九日遺領を嗣ぐ。同年郡中法度・家中法度を出した。元禄十六年二月四日吉良左兵衛義周を預けられた。宝永四年（一七〇七）郡中の林改を行った。宝永七年相模川の普請の勞に對して將軍から時服を賜った。父の忠晴は時春と号して俳句を作り、母方の磐城国（福島県）平城主内藤風虎も西山宗因門人であるというように俳諧に親しむ人があったので、幼少から俳諧に親しみ、のち服部嵐雪や宝井其角に学んだ。藩主が俳諧を好んだから、藩中にも有名な俳人が出るようになった。蕉門十哲の一人に数えられる河合曾良などもその影響を受けた一人といわれる。元禄十年三月十八日高島藩士鶴飼盈章の家で俳諧の連歌百韻を催したときの、

一つまみおごるすみれの幾所

という句が残っている。享保十六年七月二日六十九歳で没した。法

名は洞虎院殿彰往闇幽大居士。室は元禄十六年八月四日没。法名玄珠院殿勝光如燦大姉。江戸芝高輪東禅寺に葬る。

諏訪忠林 すわ・ただとき 墓碑F

第五代高島藩主。元禄十六年(一七〇三)〜明和七年(一七七〇)。

諏訪美濃守頼篤次男。母は正木氏。八月十二日江戸に生まれる。名は万次郎、織部、修理。享保六年(一七二一)四月十一日忠虎の養子となり、その娘七を室とする。同年十二月十八日従五位下伊勢守に叙任。享保十六年八月二十五日家督。同月二十七日因幡守に叙任。享保十八年に描かせた『諏訪藩主手元絵図』は当時の村々を知る好史料である。また、詩文に親しみ、太宰春台・服部南郭らと交わり、

元文二年(一七三七)高島城三之丸に八詠楼を建て、詩友を会して詩会を催し「八詠楼記」を残している。このころ藩体制も行き詰まりをみせ、家老千野兵庫貞亮ら三之丸派は宝暦六年(一七五六)に繰廻方と称して改革に着手したが、二之丸騒動と呼ばれる御家騒動の遠因になった。宝暦十二年七月二日流人野沢半平清儀を預けられる。宝暦十三年八月二十六日隠居。明和七年五月二十七日江戸に没す。享年六十八。温泉寺に葬る。養賢院殿聖諦範大居士。室は寛保三年(一七四三)十一月七日没。法名雲台院殿靈香慈薫大姉。江戸芝高輪東禅寺に葬る。

諏訪忠厚 すわ・ただあつ 墓碑B

第六代高島藩主。延享三年(一七四六)〜文化九年(一八一二)。

九月二十九日江戸桜田邸に生まれる。母は家女金坂氏。名は軍蔵。宝暦十二年(一七六二)十二月十八日従五位下伊勢守に叙任。室は備後福山藩主阿部伊勢守正福の娘。のち離別。宝暦十三年八月二十六日封を嗣ぎ、同月二十七日安芸守に叙任。繰廻方と称して藩政の改

革に着手した家老千野兵庫ら三之丸派は明和元年(一七六四)新役所を設けて改革を進めたが、家老諏訪大助頼保ら二之丸派と対立し二之丸騒動と呼ばれる御家騒動になり、明和八年三之丸派は失脚した。安永九年(一七八〇)四月十九日御預かり人野沢半平が在所で病死した。天明元年(一七八一)十二月十一日二之丸騒動を收拾するため隠居。文化九年六月十七日江戸で没した。享年六十七。温泉寺に葬る。法名は観光院殿天倫宗澤大居士。室は離縁後、越後黒川藩主柳沢信有と再婚。寛政十一年(一八〇〇)三月十三日没。法名泰聖院殿安岳祐心大姉。新宿区の月桂寺に葬る。

諏訪忠肅 すわ・ただかた 墓碑G

第七代高島藩主。明和五年(一七六八)〜文政五年(一八二二)。

四月四日諏訪に生まれる。母は家女木村氏。名は軍次郎。天明元年(一七八一)八月十九日嫡子となる。同年十二月十一日封を嗣ぎ、同月十六日従五位下伊勢守に叙任。天明五年四月六日三河西尾藩主松平和泉守乗完の娘を娶る。天明七年三月八日因幡守に叙任。二之丸騒動落着の後を受け、坂本養川の献策によって、天明五年開削の滝之湯汐の開削をはじめとする繰越汐と呼ばれる灌漑用水体系の再編成を行い、開発を進めた。また享和三年(一八〇三)には藩校長善館を開設した。寛政四年(一七九二)七月十五日奏者番となる。文化十三年(一八一六)九月十四日願いにより奏者番御免。同年十一月二十一日隠居。文政五年六月二十八日江戸で没した。享年五十五。温泉寺に葬る。法名は放光院殿普照道徳大居士。室は天保二年(一八三一)十一月十二日没。法名真操院殿成円理貞大姉。江戸芝高輪東禅寺に葬る。

諏訪忠恕 すわ・ただみち 墓碑A

## 高島藩諏訪家廟所の藩主以外の被葬者

第八代高島藩主。寛政十二年（一八〇〇）～嘉永四年（一八五一）。十月十一日諏訪に生まれる。母は家女前村氏。また山県氏ともいう。名は鉄次郎。文化十年（一八一三）十二月十六日従五位下伊勢守に叙任。文化十二年（一八一五）十二月二日陸奥白河藩主松平越中守定信の娘烈を娶る。文化十三年十一月二十一日封を嗣ぐ。文政七年（一八二四）には桑苗を下付して養蚕を勧めた。また、勝田鹿谷の献策によって、天保七年（一八三六）四月二十八日飢餓に備えて御囲柵仰せ出され、常盈倉を建て柵を蓄えた。天保十一年五月六日隠居。天保十四年九月十三日願いのおり射山と改名。嘉永四年五月一日江戸木挽町邸で没した。享年五十二歳。温泉寺に葬る。法名は泰俊院殿徳海義山大居士。夫人は明治八年（一八七五）五月二十日没。法名は清昌院殿靈鑑常照大姉。東京駒込吉祥寺に葬る。

- H 景耀院殿靈淵空慧大居士 諏訪忠尋 第四代藩主諏訪忠虎嫡男。元禄八年（一六九五）十月十六日生。宝永六年（一七〇九）三月二十七日従五位下出雲守。襲封しないまま、享保二年（一七一七）四月二十三日没。享年二十三歳。江戸芝高輪東禅寺に葬る。温泉寺の墓碑は供養碑。
- I 盛光院殿溪元怡清大姉 諏訪延 第二代藩主諏訪忠恒二女。生年未詳。慶安四年（一六五一）一月二十二日没。
- J 自得以休禅定尼 氏名・続柄・生年・没年ともに未詳。
- K 心無受法禅定尼 氏名・続柄・生年・没年ともに未詳。
- L 遼晴院殿天質栄寵童子 諏訪晴太郎 第三代藩主諏訪忠晴四男。生年未詳。天和二年（一六八二）四月二十九日没。
- M 貞松院殿興誉英隆大姉 初代藩主諏訪頼水室。本多康重の女。永禄十年（一五六七）生。天正十一年（一五八三）婚姻。正保二年（一六四五）十月七日卒。享年七十九歳。城下の貞松院に葬る。寛永五年（一六二八）十一月十八日高野山に供養碑が建つ。奉行は小松五郎左衛門。温泉寺の墓碑は供養碑。
- N 秀天童子 諏訪竹千代 第二藩主諏訪忠恒長男。生年未詳。寛永五年（一六二八）六月三日没。
- O 温泉寺開基 前因州晁窓映林大居士 諏訪頼水 初代藩主。第二代藩主諏訪忠恒の父。上原村（茅野市）頼岳寺に葬る。温泉寺の墓碑は供養碑。
- P 瑤心院殿本寂浄智大童女 諏訪寿女 第四代藩主諏訪忠虎七女。

生年未詳。享保九年（一七二四）八月七日没。

Q 【石塔の台石かとも思われる。】

R 月桂院殿宝岳栄珍大姉 諏訪吟子 第二代藩主諏訪忠恒三女。生年未詳。承応二年（一六五三）二月十八日没。

S 寂照院殿明道智光大童女 諏訪豊 第八代藩主諏訪忠恕の嫡女。母は伴氏。文政三年（一八二〇）八月二十三日生。文政四年五月十日没。享年二歳。

T 幻光院殿節巖智貞大童子 諏訪熊蔵。第七代藩主諏訪忠肅の三男。文化三年（一八〇六）三月二十五日生。文化三年五月二十五日没。当歳。

U 清昌院殿靈鑑浄照大姉 諏訪烈 第八代藩主諏訪忠恕室。陸奥白河藩主松平定信の女。松平越中守定永妹。寛政十年（一七九八）二月四日生。寛政六年二月四日ともいう。文化十二年（一八一五）十一月二日婚姻整う。天保元年（一八三〇）二月一日

厄年。明治八年（一八七五）五月二十日東京根岸邸で没。東京駒込吉祥寺に葬る。位碑は東京芝高輪東禅寺・温泉寺に納める。温泉寺の墓碑は供養碑。

V 雲台院殿靈香慈薰大姉 諏訪七 第四代藩主諏訪忠虎の女。母は側室おかや。第五代藩主諏訪忠林室。享保三年（一七一八）六月十三日生。享保十八年十一月二十一日江戸外桜田上屋敷で婚礼。寛保三年（一七四三）十一月七日没。享年二十六歳。江戸

芝高輪東禅寺に葬る。温泉寺の墓碑は供養碑。

W 蘭香院殿妙峯仁秀童子 諏訪忠倫 第五代藩主諏訪忠林嫡男。生年未詳。延享四年（一七四七）八月十六日没。

X 桂林院殿月輪妙光大童女 諏訪季子 第八代藩主諏訪忠恕の女。

母は伴氏。文政十三年（一八三〇）九月二十五日生。天保二年（一八三一）八月二十三日没。二歳。

Y 月江院殿心岳清鑑大禅定尼 墓碑は不明で、燈籠だけが存在する。第二代藩主諏訪忠恒室。豊後臼杵藩主稻葉典通の女。元和七年（一六二一）七月十六日婚姻。寛文九年（一六六九）二月十四日卒。七十七歳。江戸芝高輪東禅寺に葬る。同年三月十八日、高野山に御石塔を建てる。奉行大熊半之允。

甲 玉潤院宝林惠祥大童子 名未詳 第八代藩主諏訪忠恕の五男。母は伴氏。天保九年（一八三八）七月二十九日生。同年七月晦日（三十日）没。当歳。

乙 彭徳院殿温質義良大童子 諏訪鏗太郎 第十代藩主諏訪忠礼の嫡男。明治四年（一八七一）一月晦日（二十九日）生。同年八月五日没。当歳。



丙 妙解院殿信行善覚大姉 カヤ 第四代藩主諏訪忠虎側室。生年未詳。享保七年（一七二二）九月六日没。享年未詳。葬地は温泉寺か。

丁 智覚印本源自（貞力）性大童子 名前未詳 第九代藩主諏訪忠誠の男。嘉永五年（一八五二）閏二月四日生。同年閏二月五日没。当歳。葬地は温泉寺か。

戊 【石積み。墓か否か未詳。】



# 高島藩諏訪家廟所の墓碑

 埋め墓   
  参り墓   
 ? 未詳 ( ) 内は異説

## 上の段

代数	諱	葬	戒	名	続柄	命	日
A	忠恕		泰俊院殿徳海義山大居士 神儀	忠肃嫡子	忠肃嫡子	嘉永 四辛 癸天五月初一日【1日】	
B	忠厚		觀光院殿天倫宗沢大居士 神儀	忠林嫡子	忠林嫡子	文化 九壬 甲天 六月十有七日	
C	忠晴		乾龍院殿雄威文顯大臣士 神儀	忠恒嫡子	忠恒嫡子	元禄 八乙 亥歳 三月初二日	
D	忠虎		洞虎院殿彰在闍幽大居士 神儀	忠晴嫡子	忠晴嫡子	享保 十六辛 亥年 七月初二日	
E	忠恒		天久院殿一賢宴閑大居士 神儀	頼水嫡子	頼水嫡子	明暦 三丁 酉季 正月初五日	
F	忠林		養賢院殿聖詔詭範大居士 神儀	忠虎養子	忠虎養子	明和 七庚 天 五月二十七日	
G	七代 忠肃		放光院殿普照道徳大居士 神儀	忠恒嫡子	忠恒嫡子	文政 五壬 午天六月二十七日【28日】	
H	未襲 忠尋		景耀院殿靈淵空慧大居士	忠虎嫡子	忠虎嫡子	享保 二丁 酉年 四月二十三日	

## 中の段

代数	諱	葬	戒	名	続柄	命	日
I	延	?	盛光院殿溪元怡清大姉	忠恒二女	慶安 四辛 卯年 一月二十日		
J	未詳	?	自得以休禪定尼		不詳		
K	未詳	?	心無受法禪定尼 □□位		不詳		
L	晴太郎	?	逸晴院殿天實采籠童子	忠晴四男	天和 二壬 戌年 四月廿九日		
M	未詳		貞松院殿【興誓英隆大姉】	頼水室	正保【二年十月七日】		

## 通路

代数	諱	葬	戒	名	続柄	命	日
N	竹千代	?	秀天童子	忠恒長男	寛永 五年 六月初一日		
O	頼水		温泉寺開基前因州吳察映林大居士 覚靈				
P	寿女	?	瑤心院殿本寂浄智大童女	忠虎七女	享保 九甲 辰年 八月初七日		
Q	未詳	?	【石塔の台石か】				
R	吟子	?	月桂院殿室岳采珍大姉	忠恒三女	承応 二癸 巳季 二月十八日		
S	豊		寂照院殿明道智光大童女	忠恕嫡女	文政 四辛 巳年 五月十日		
T	熊威		幻光院殿節嚴智貞大童子	忠肃三男	文化 三丙 寅年 五月二十五日		
U	烈		清昌院殿靈鑑浄照大姉	忠恕室	明治 八乙 亥年 五月二十日		
V	七		雲台院殿靈香慈薫大姉	忠林室	寛保 三年 癸 十一月初七日		
W	忠倫		蘭香院殿妙峯仁秀童子	忠林嫡男	延享 四丁 卯年 八月十六日		
X	季子		桂林院殿月輪妙光大童女	忠恕七女	天保 二辛 卯年 八月廿三日		

## 下の段

代数	諱	葬	戒	名	続柄	命	日
甲	未詳		玉潤院宝林惠祥大童子	忠恕五男	天保 九戊 亥年 七月晦日(30日)		
乙	未詳		彭徳院殿温質義良大童子	忠礼嫡男	明治 四辛 未年 八月初五日		
丙	カヤ	?	妙解院殿信行善覚大姉	忠虎側室	享保 七壬 寅年 九月初六日		
丁	未詳		智覚院本源自(貞カ)性大童子	忠誠□男	嘉永 五壬 子年閏二月初五日		
戊	未詳	?	【石積み】				

# 高島藩諏訪家廟所の石燈籠 (1)

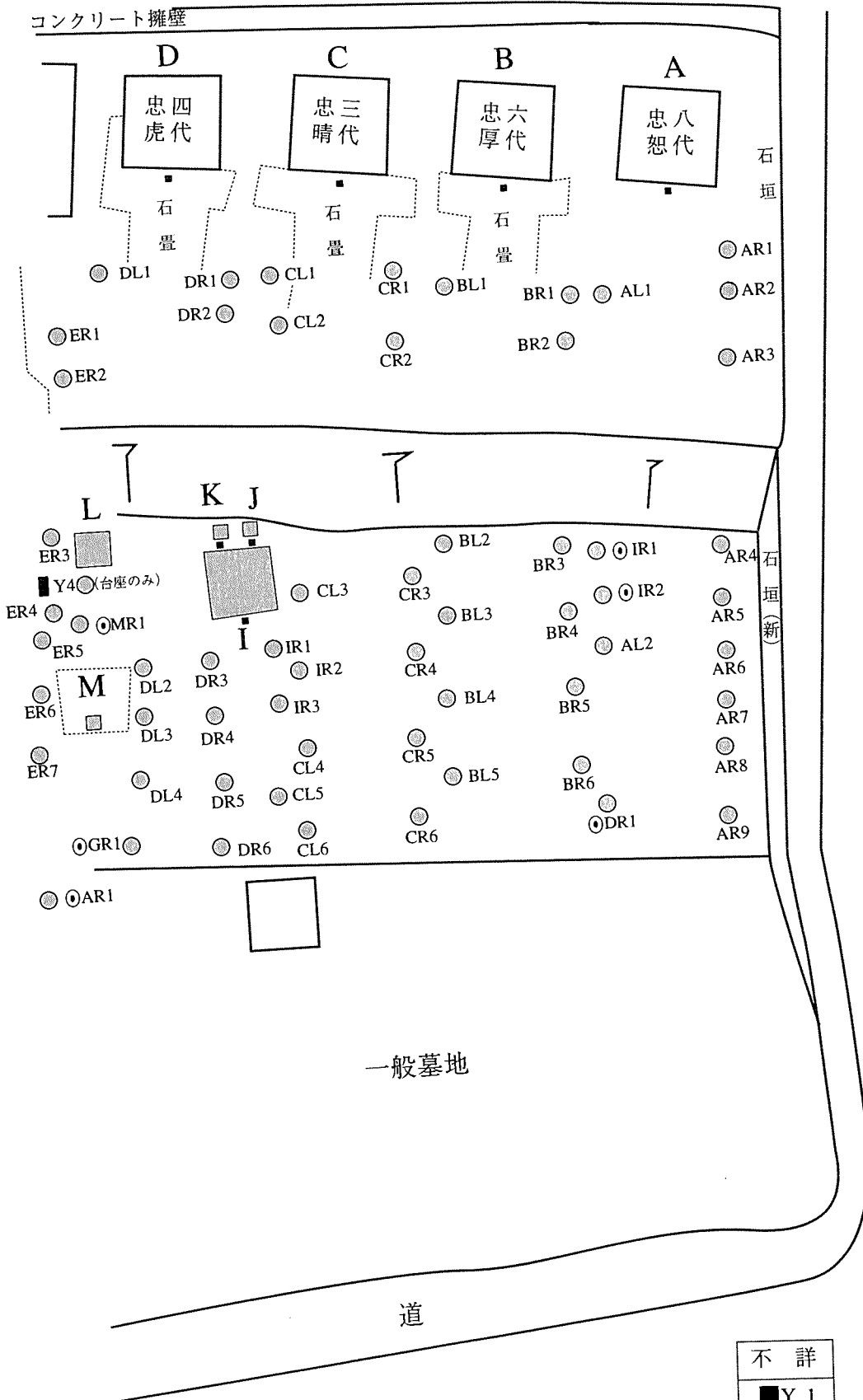
No.欄の●は本来あった場所から移転したと思われるもの。  
Rは臺碑に向かって右側、Lは左側、順番は臺碑に近い方から1、2、3、4、……

No.	銘文①	銘文②	銘文③	氏名	諱	『藩譜私集』知行高	役職
A							
AR1	奉納 石燈籠			諏訪左源太源頼威	頼威	⑥178	分知旗本
AR2	奉獻上石燈籠	壹基		千野 修 弼	貞寛	①12	家老
AR3	奉獻上石燈籠	壹基		千野 孫九郎	貞篤	①20	家老見習
AR4	奉獻上石燈籠	壹基		澤市左衛門	滿持	家譜	
AR5	奉獻上石燈籠	壹基		牛山彦左衛門	□廣	①55	用人
AR6	奉獻上石燈籠	壹基		中嶋刑部左衛門	成裕	06	用人
AR7	奉獻上石燈籠	壹基		千野源五郎	房儀	④84	用人
AR8	奉獻上石燈籠	壹基		松井小左衛門	賀都	④129	用人
AR9	奉獻上石燈籠	壹基		勅使河原魯助	正直	①8	用人
AL1	奉獻上石燈籠	壹基		千野 將 監	貞壯	①17	家老
AL2	奉獻上石燈籠	壹基		久保嶋平左衛門	久哲	①133	用人
●AR1	奉獻上石燈籠	壹基		両角市郎右衛門	政知	①73	用人
●AR2	奉獻上石燈籠	壹基		牛山 助之進	晴符	①51	用人
●AL1	奉獻上石燈籠	壹基		高山 作右衛門	充恭	①33	用人
●AL2	奉獻上石燈籠	壹基		前田 和左衛門	晴宛	①3	用人
B							
BR1	奉獻上石燈籠	壹基		千野 修 弼	貞侃	①11	家老
BR2	奉獻上石燈籠	壹基		千野 吉太 郎	貞壯	①17	家老見習
BR3	奉獻上石燈籠	壹基		牛山 内 匠	晴實	①51	用人
BR4	奉獻上石燈籠	壹基		中嶋 甚五兵衛	成胤	④105	用人
BR5	奉獻上石燈籠	壹基		両角 久兵衛	政在	①63	用人
BR6	奉獻上石燈籠	壹基		諏訪 八之助	頼豫	④77	用人
BL1	奉獻上石燈籠	壹基		千野 雄之助	貞臣	①17	家老
BL2	奉獻上石燈籠	壹基		久保嶋平左衛門	久徴	①133	用人
BL3	奉獻上石燈籠	壹基		澤市左衛門	滿矩	家譜	用人
BL4	奉獻上石燈籠	壹基		松田太郎左衛門	昌滋	①126	用人
BL5	奉獻上石燈籠	壹基		大熊郡右衛門	次孝	④114	用人
C							
CR1	徳献納石燈臺	—	為乾龍院殿菩提建之	諏方刑部大輔	頼基		
CR2	徳献上石燈臺	壹基		茅野 兵 庫	貞清	①7	家老
CR3	徳献上石燈臺	壹基		志賀七右衛門	滿辰	家譜	
CR4	徳献上石燈臺	壹基		茅野 十良兵衛	方辰	④87	用人

# 高島藩諏訪家廟所の石燈籠 (2)

No.	銘文①	銘文②	銘文③	氏名	諱	『藩譜私集』	知行高	役職
C								
CR5	徳献 上石燈臺	壹基		塩原 藏人	晴久	⑥	300	用人
CR6	徳献 上石燈臺	壹基		矢嶋 八兵衛	満邨	家譜	250	用人
CL1	徳献 上石燈臺	壹基		諏訪 圖書	頼任	①	1200	家老
CL2	徳献 上石燈臺	壹基		牛山 助之進	晴静	①	48	500 用人
CL3	徳献 上石燈臺	壹基		小喜多 治右衛門	晴正	④	99	150 物頭
CL4	徳献 上石燈臺	壹基		小此木 郷右衛門	直重	⑦	129	300? 物頭
CL5	徳献 上石燈臺	壹基		久保 嶋十兵衛	久行	⑥	131	150 物頭
CL6	徳献 上石燈臺	壹基		高山 善右衛門	充正	①	32	200 用人
D								
DR1	徳献 上石灯籠	壹基		諏訪 圖書	頼弟	①	2	1200 家老
DR2	徳献 上石灯籠	壹基		茅野 民部	光豊	①	9	1200 家老
DR3	徳献 上石灯籠	壹基		牛山 金兵衛	晴行	①	49	500 用人
DR4	徳献 上石灯籠	壹基		近藤 宇左衛門	虎致	⑥	132	140 用人
DR5	徳献 上石灯籠	壹基		大熊 善兵衛	□□	④	113	200 用人
DR6	奉献 上石灯籠	壹基		渡辺 助左衛門	三綿			用人
DL1	徳献 上石灯籠	壹基		茅野 兵庫	貞草	①	7	1200 家老
DL2	徳献 上石灯籠	壹基		志賀 七右衛門	満成	家譜	450	用人
DL3	徳献 上石灯籠	壹基		小沢 縫殿	虎乃	①	79	400 用人
DL4	徳献 上石灯籠	壹基		矢嶋 傳左衛門	満喬	家譜	250	用人
DDR1	徳献 上石灯籠	壹基		鵜飼 傳右衛門	盈親	家譜	200	
E								
ER1	奉納 石燈籠	—	为天久院殿 菩提立之	孝子 諏訪右近將曹	源盛給			分家旗本
ER2	奉納 石燈籠	—		諏訪 圖書	盛政	①	1	800 家老
ER3	奉献 上石燈籠	—		志賀 七右衛門	近房	家譜	400	
ER4	奉納 石燈籠	—		小沢 縫殿	正栄	①	77	400 用人
ER5	奉献 上石燈籠	—		大熊 善兵衛	重次	④	112	200 用人
ER6	奉献 上石燈籠	—		鵜飼 傳右衛門	盈秋	家譜	200	
ER7	奉献 納石燈籠	—		工藤 權右衛門	重通	④	51	200 用人
EL1	徳納 石燈籠	—	为天久院殿 菩提立之	孝子 諏訪兵部少輔	源頼尚	⑤	178	分知旗本
EL2	奉納 石燈籠	—		孝子 諏訪右衛門佐	源盛鄰	⑥	179	分知旗本
EL3	徳献 上石燈籠	—		茅野 与三左衛門尉	貞典	①	6	800 家老

コンクリート擁壁



不詳
■ Y 1
■ Y 2
■ Y 3
■ Y 4

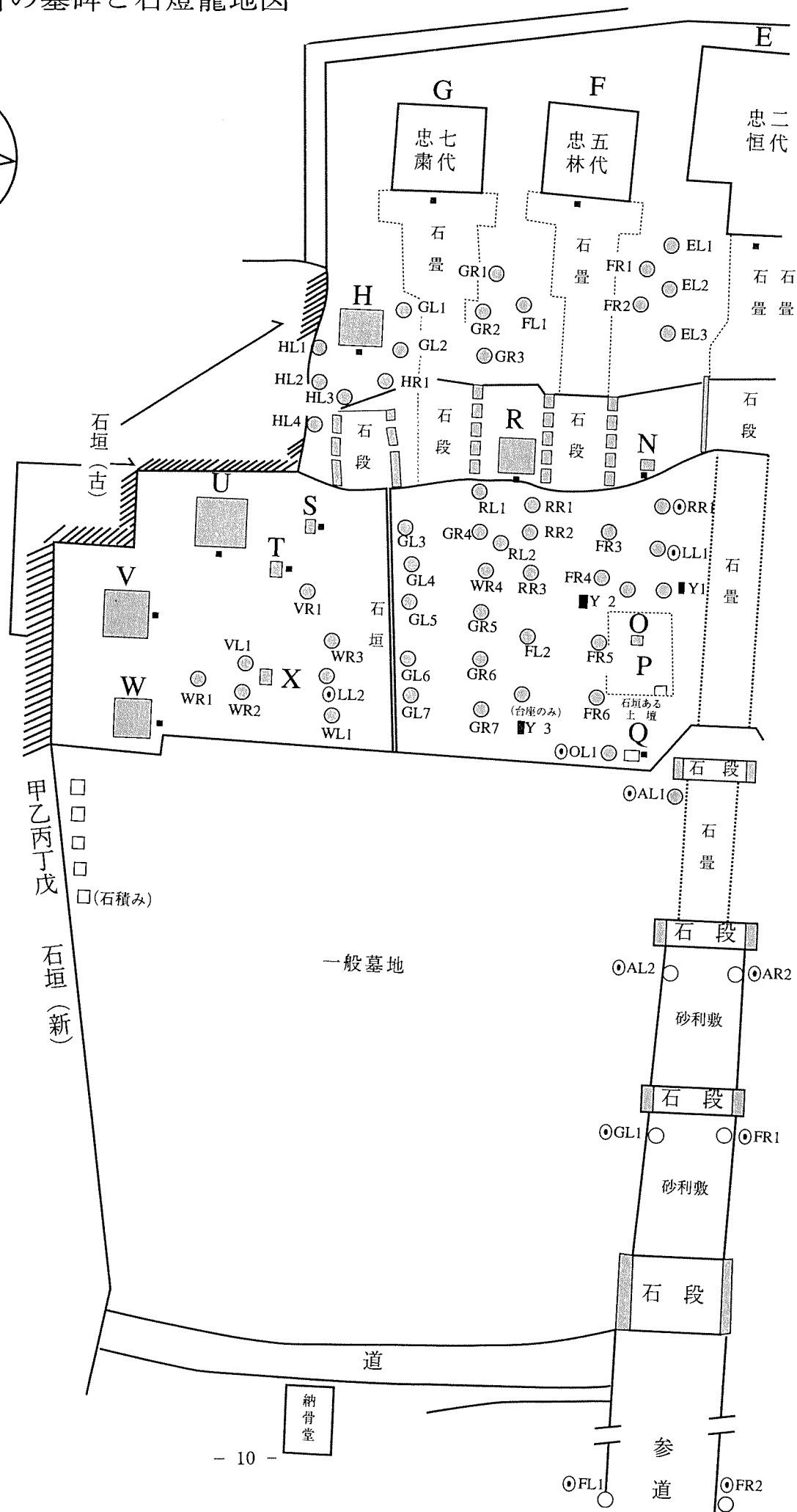
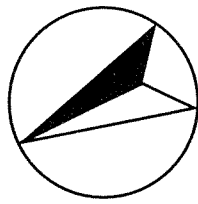
凡例

- ..... 石燈籠
- ..... 墓石 (小)
- ..... 墓石 (大)、供養塔

※注：○FR1 と ○FR2 の間は52.7m、

- 9 - ○GL1 と ○FL1 の間は52.3m それぞれ離れている。

# 高島藩諏訪家廟所の墓碑と石燈籠地図



# 高島藩諏訪家廟所の石燈籠 (3)

No.	銘文①	銘文②	銘文③	氏名	諱	『藩譜私集』	知行高	役職
F								
FR1	奉獻納石燈籠		為善賢院殿 菩提建之	諏訪 勇次郎	頼訓			
FR2	奉獻上石燈籠	壹基		諏訪 圖書	頼英	① 4	1200	家老
FR3	奉獻上石燈籠	壹基		志賀 七右衛門	満成	家譜	300	
FR4	奉獻上石燈籠	壹基		小喜多次良右衛門	光收	④ 98	150	用人
FR5	奉獻上石燈籠	壹基		波多野 左膳	通貫	④ 147	150	用人
FR6	奉獻上石燈籠	壹基		塩原 三左衛門	晴門	④ 7	300	用人
FL1	奉獻上石燈籠	壹基		千野 兵衛	貞亮	① 9	1200	家老
FL2	奉獻上石燈籠	壹基		大熊 善兵衛	次夢	④ 113	200	用人
●FR1	奉獻上石燈籠	壹基		諏訪 銀之進	頼道	④ 71	250	用人
●FR2	奉獻上石燈籠	壹基		牛山 内記	晴應(底カ)	① 50	500	用人
●FL1	奉獻上石燈籠	壹基		渡部 助左衛門	三行			
G								
GR1	奉納 石燈籠			諏訪 靱負 源頼安	同人室			旗本
GR2	奉獻上石燈籠	壹基		千野 兵衛	貞侃	① 11	1200	分知家老
GR3	奉獻上石燈籠	壹基		茅野 將監	貞壯	① 17	?	家老見習
GR4	奉獻上石燈籠	壹基		中嶋 甚五兵衛	成胤	④ 105	160	中老
GR5	奉獻上石燈籠	壹基		大熊 郡右工門	次孝	④ 114	200	用人
GR6	奉獻上石燈籠	壹基		鵜飼 傳右工門	盈之	家譜	200	
GR7	奉獻上石燈籠	壹基		山 中 牧 之助	正路	① 26	180	用人
GL1	奉獻上石燈籠	壹基		千野 雄之助	貞臣	① 17	1200	家老
GL2	奉獻上石燈籠	壹基		志賀 武左工門	満謙			
GL3	奉獻上石燈籠	壹基		牛山	晴纒	① 51	500	席用人上
GL4	奉獻上石燈籠	壹基		松田 正太夫	昌滋	① 126	140	用人
GL5	奉獻上石燈籠	壹基		高山 善右工門	充式	① 31	200	用人
GL6	奉獻上石燈籠	壹基		遊座 半左工門	貞固	④ 58	100	用人
GL7	奉獻上石燈籠	壹基		菅沼 礪右工門	信恭	① 113	140	用人
●GR1	奉獻上石燈籠	壹基		三輪 五郎右工門	知定	① 97	150	用人
●GL1	奉獻上石燈籠	壹基		而角 外太夫	政在	① 63	200	用人

# 高島藩諏訪家廟所の石燈籠 (4)

No.	銘文①	銘文②	銘文③	氏名	諱	『藩譜私集』	知行高	役職
H								
RR1	寄進 燈籠	両基	景耀院殿石塔前	源朝臣 諏訪	忠虎	御記譜	—	藩主
HL1	寄進 燈籠	両基	景耀院殿石塔前	※1 源朝臣 諏訪	忠虎	御記譜	—	藩主
HL2	奉獻燈籠	一基	景耀院殿尊前	※2 源朝臣 諏訪	頼兼	① 2	1200	家老
HL3	奉獻燈籠	一基	景耀院殿尊前	茅野 兵庫	貞清	① 7	1200	家老
HL4	奉獻燈籠	一基	景耀院殿尊前	小喜多治右衛門	晴近	④ 100	250	御長柄奉行
I								
IR1	石燈籠		為盛光院殿 溪元怡清大姉菩提也	源朝臣 諏訪出雲守	忠恒	御記譜	—	藩主
IR2	奉寄進石燈籠			※3 諏方頼風婦人			—	
IR3	奉寄進石燈籠		為盛光院殿 溪元怡清大姉 御菩提也	上原 郷右衛門	宣全	④ 109	140	
●IR1	奉寄進石燈籠		為盛光院殿 溪元怡清大姉 御菩提立之					
●IR2	奉寄進石燈籠		為盛光院殿 溪元怡清大姉 御菩提也	吉田 治兵衛	継久?	④ 134		丹照院名勝
J								
K								
L								
●LL1	奉獻石燈臺	二樹	遼晴院殿靈廟前	施主 藤原性女		—	—	忠晴室
●LL2	奉獻石燈臺	二樹	遼晴院殿靈廟前	施主 藤原性女	母内藤氏?	—	—	忠晴室
M								
●MR1	奉納 石燈籠		為貞松院殿 興譽英隆大姉菩提建立之	源朝臣 諏訪出雲守忠恒			—	藩主
N								
O								
●OR1	奉納 石燈籠		為温泉開基 □□映林大居士菩提建立之	源朝臣 諏訪出雲守忠恒			—	藩主
P								
Q								
R								
RR1	奉納石燈籠		月桂院殿寶岳栄珍大姉 (忠恒三女)	□應 癸巳 季 二月廿八日				
RR2	奉納石燈籠		月桂院殿寶岳栄珍大姉 (忠恒三女)	承應 二 癸巳 季 二月二十八日	利 栄 信 尼	④ 100	—	異父の姉
RR3	奉納石燈籠		月桂院殿寶岳栄珍大姉 (忠恒三女)	承應 二 癸巳 季 二月二十八日				
RL1	奉納石燈籠		月桂院殿寶岳栄珍大姉 (忠恒三女)	承應 二 癸巳 季 二月二十八日	利 栄 信 尼	④ 100	—	異父の姉
RL2	奉納石燈籠		月桂院殿寶岳栄珍大姉 (忠恒三女)	承應 二 癸巳 季 二月二十八日	中 嶋 孫 兵 衛	④ 104		忠恒親室の弟
●RR1	奉納石燈籠		月桂院殿寶岳栄珍大姉 (忠恒三女)	承應 二 癸巳 季 二月二十八日				

# 高島藩諏訪家廟所の石燈籠 (5)

No.	銘文①	銘文②	銘文③	氏名	諱	『藩譜私集』知行高	役職
S							
T							
U							
V							
VR1	寄進 燈籠	両基	雲臺院殿石塔前		忠林		藩主
VL1	寄進 燈籠	両基	雲臺院殿石塔前	寛保三年癸亥十一月七日	忠林		藩主
W				※4			
WR1	奉獻 灯籠	一基	(蘭) (番) (假) 院 尊前	延享四丁卯年八月十六日	貞章	① 7	家老
WR2	寄進 燈籠	両基	蘭香院殿石塔前	延享四丁卯年八月十六日	忠林		藩主
WR3	奉獻 灯籠	一基	蘭 尊前	延享四丁卯年八月十六日	頼弟	① 2	家老
WR4	奉獻 灯籠	一基	蘭香院殿尊前	延享四丁卯年八月十六日	頼母	① 4	家老
WL1	寄進 燈籠	両基	蘭香院殿石塔前	延享四丁卯年八月十六日	忠林		藩主
X				※7			
Y							
Y1			為月江院殿 心岳清鑑大禪定尼	寛文九己酉初秋十三日	藤原姓女	※8	忠恒室
Y2	奉献上石燈籠		為月江院殿 心岳清鑑大禪定尼	寛文九己酉初秋十三日	藤原姓女	※9	忠恒室
Y3			【礎石のみ】				
Y4			【礎石のみ】				

- HR1 ※1 信州高島城主 從五位下安藝守 源朝臣 諏訪忠虎
- HL1 ※2 信州高島城主 從五位下安藝守 源朝臣 諏訪忠虎
- IR2 ※3 為盛光院殿溪元胎清大姉「菩提者嗚呼功德偉哉」親氏曰我見灯明佛本「光端如此、豈腹妄語、若又」妄語拔舌犁ヲ耕瞿曇「如何迴避都慮一團鉄」到這裡大姉兄此灯明佛」点 桑門記 慶安四年辛卯三月十三日 奉寄進 石灯籠 諏方圖書頼風婦人立之
- VR1 ※4 信州高島城主從五位下因幡守源朝臣諏訪忠林建
- VL1 ※5 信州高島城主從五位下因幡守源朝臣諏訪忠林建
- WR2 ※6 信州高島城主從五位下因幡守源朝臣諏訪忠林建
- WL1 ※7 信州高島城主從五位下因幡守源朝臣諏訪忠林建
- Y1 ※8 施主 從五位下兼因幡守諏訪氏源忠晴(朝)臣夫人 藤原姓女
- Y2 ※9 施主 從五位下兼因幡守諏訪氏源忠晴朝臣夫人 藤原姓女



## 藩主・正室の温泉寺以外の葬地

### 頼岳寺

茅野市ちの上原の曹洞宗の寺院。諏訪氏の菩提寺としては、上原の地に永正年間（一五〇四）

一五二一）諏訪碧雲齋頼満の開基と伝える宝勝山永明寺があったが、高島藩初代藩主諏訪頼水は、永明寺が命令に従わなかったので寛永七年（一六三〇）廃寺にし、永明寺は墓地だけが残っている。永明寺の本尊・什器等を継承して、寛永八年上原村（茅野市）に少林山頼岳寺を建て、寺領一〇〇石と広大な山林を寄進した。

頼水は、上州惣社時代に参禅した白井の双林寺十三世大通関徹禅師を招いて頼岳寺の開山とした。頼水はここに葬られている。

なお、頼岳寺は、諏訪上社大祝諏方家・高島藩家老二之丸諏訪家、志賀・鶴飼・矢島・牛山など多くの上級藩士の菩提寺にもなっている。

### 諏訪頼水 すわ・よりみず

初代高島藩主。元亀元年（一五七〇）〜寛永一八年（一六四一）。頼忠の長男。母は向山氏。駒房丸、小太郎、初め頼満と称した。天正六年（一五七八）から九年間諏訪上社大祝。天正十一年（一五八三）に、上野国白井藩主、ついで三河国岡崎藩主になった本多康重の女を娶る。天正十八年（一五九〇）小田原の役に従軍した。同年六月十日封を嗣ぎ、同年徳川家康の関東移封にともない、父頼忠とともに武蔵国奈良梨・羽生・蛭川一万二、〇〇〇石（一〇、〇〇〇石ともいう）に移った。文禄元年（一五九四）上野国惣社に移された。関ヶ原の戦いの後、慶長六年（一六〇一）旧領諏訪郡に帰され、高島城主となる。慶長十年従五位下因幡守に叙任。慶長十九年大坂冬の

陣には徳川秀忠に従って、真田昌幸の上田城を攻め、元和

元年（一六一五）の大坂夏の陣には、甲府城を守った。大坂の陣の後、軍功によって元和四年信濃国筑摩郡において五、〇〇〇石（東五千石）を増された。寛永七年菩提寺の永明寺が命令に従わなかったので破却し、翌年頼岳寺を開いて菩提寺とし父母の廟をつくった。また湖辺の干拓、新田の開発、逃散百姓の還任など、農業生産の回復と増大を図った。草創期の藩主として

独裁的であったが、家臣との間には後には見られないような親密な関係が見られた。在職三九年、寛永十七年九月二十七日致仕。寛永十八年正月十四日諏訪において没し、頼岳寺に葬られた。法名は頼岳院殿昊窓映林大居士。室は正保四年（一六四五）十月七日没。法名貞松院殿興誉英隆大姉。城下の貞松院に葬られた。

### 吉祥寺

東京都文京区本駒込三丁目にある曹洞宗の寺院。江戸時代には曹洞宗の禅學の中心として栄え、盛

時には二七の学寮に千余人の學僧が学んだという名刹である。江戸時代には、藩主と諏訪でなくなった側室や子女は温泉寺に、正室とその子女と側室とその子女の一部は江戸芝高輪の東禅寺に葬ら



諏訪頼水廟

れていた。明治八年（一八七五）、第八代藩主諏訪忠恕室清昌院が葬られて以来、吉祥寺が諏訪家の菩提寺になり、第九代藩主諏訪忠誠・第十代藩主諏訪忠礼もここに葬られた。

諏訪忠誠 すわ・ただまさ

第九代高島藩主。文政四年

（一八二二）～明治三十一年

（一八九八）。五月八日江戸木

挽町邸に生まれる。母は松平

定信の娘清昌院。名は鉄太

郎。従五位下。従四位。従三

位。天保六年（一八三五）十

二月十六日因幡守に叙任。天

保十一年五月六日二十歳で封を嗣ぐ。天保十三年六月二十六日水野

美濃守の御預かりを仰せ付けられ、翌年九月水野美濃守は死去。同

年十一月十五日奏者番となる。万延元年（一八六〇）六月一日若年

寄となり、文久元年（一八六一）八月十一日御役御免。文久二年十

月九日寺社奉行となり、同年十一月十一日御役御免。同日若年寄と

なり、元治元年（一八六四）六月十八日御役御免。同月二十九日老

中格となり、ついで七月二十三日老中となる。同年十月十三日外国

御用、十一月十日侍従に任ぜられる。慶応元年（一八六五）四月十

九日老中御役御免。この間文久元年十一月に皇女和宮の御通行、元



吉祥寺墓地

治元年十一月に樋橋戦争（和田峯合戦）、慶応四年（一八六八）に偽勅使高松殿、赤報隊、甲州出兵、越後口出兵などと事件が多く、藩政改革や経済の立て直しは遂にできなかった。慶応四年五月二十四日隠居。廃藩後は神官となり、芝東照宮、芝大神宮の祠官を経て、明治二十四年（一八九一）諏訪神社宮司となり、従三位に進んだ。明治三十一年二月十九日東京で没した。享年七十八。神葬で東京駒込の吉祥寺墓地に葬られた。

諏訪忠礼 すわ・ただあや

第十代高島藩主。嘉永六年（一八五三）～明治十一年（一八七八）。

分知旗本の諏訪左源太頼威の次男。嘉永六年正月十三日生まれる。慶

応四年（一八六八）二月八日忠誠の養子となり、同年五月二十四日

封を嗣いだ。明治二年（一八六九）三月十五日版籍奉還を上奏し、六

月十三日聴許された。同十七日高島藩知事に任ぜられ、華族に列せ

られ、同二十五日領地の現石の一〇分の一を下賜された。明治四年

廃藩置県により知藩事（藩知事）の職を解かれ、東京へ移住。明治

十一年十月十日没した。享年二十六歳。神葬で東京駒込の吉祥寺墓

地に葬られた。

### 貞松院

市内諏訪二丁目の浄土宗の寺院。諏訪頼水の室

は、本多康重の女で、没後は浄土宗の寺に葬られ

ることを望んでいた。その遺志に基づいて、文禄二年（一五九三）草

創の慈雲院を法名貞松院殿興誉英隆大姉に因んで貞松院と改めここ

に葬った。この寺は流人として高島藩に預けられていた徳川家康の

六男松平忠輝の菩提寺となり、その遺品も納められている。宝永三

年（一七〇六）六月二十三日、忠輝供養のため、伊那郡三日町で三

〇石の御朱印を寄進された。

## 東 禅 寺

東京都港区高輪三丁目にある臨濟宗妙心寺派の寺。慶長十五年（一六一〇）に赤坂溜池に創建。寛永十三年（一六三六）現在地へ移転した。仏日山東禅寺という。第二代藩主諏訪忠恒の正室から第七代諏訪忠肅の正室までの墓や江戸で没した藩主の子女の墓がある。

基が立っている。墓碑の高さは、約三・八メートルで、側室や子女の五輪塔には、やや小型のものもある。「信州諏訪高島藩主之墓」の後ろ側に小型の石塔が並んでいる。これらは藩主一族の諏訪氏のものである。

（諏訪市文化財専門審議会委員長 浅川清栄）

## 高 国 寺

市内諏訪二丁目の日蓮宗の寺院。元和元年（一六一五）、日長上人が諏訪に来て草庵を結び、寛永元年（一六二四）寺としたという。再興は寛文五（一六六五）年で、そのときの開基は、第二代藩主諏訪忠恒の側室で、第三代藩主諏訪忠晴の生母の永高院である。

永高院は、天和三年（一六八三）一月一日没した。日蓮宗の寺院に葬られることを望んでいたので、江戸雑司ヶ谷の日蓮宗の法明寺に葬られた。法名は永高院殿天心日誠大姉。高国寺には分骨が葬られている。

## 高野山の香火所

諏訪家の高野山の香火所は金剛頂院（金剛三昧院）であった。金剛三昧院は高野山金剛峯寺の塔頭の一つ。本眼大蓮上人安達景盛が源実朝と北条氏の菩提を弔うために北条政子に勧めて建立し、初代長老に行勇を推薦した。

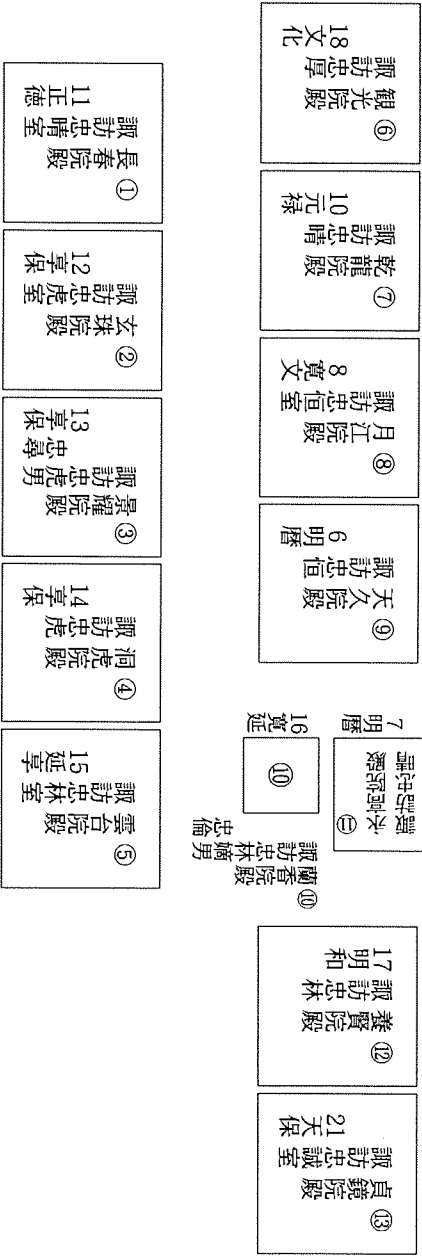
高野山の奥の院の墓地には、数え切れない程多くの墓碑が立ち並んでいる。高島藩主諏訪家の墓地は一の橋と中の橋の中程の山手にあり、「信州諏訪高島藩主之墓」の標柱が立ち、金剛三昧院で管理している。墓地には、歴代藩主・正室。生母・子女などの五輪塔二二



高野山高島藩主墓碑

- 不 詳 U △
- 自明院殿 T △
- 慶光院殿 S 田
- 慈雲院殿 R 田
- 真光院殿 Q 田
- 不 詳 P 田
- 心誠院殿 O 田
- 不 詳 N 田
- 不 詳 M 田
- 不 詳 L 田
- 不 詳 K 田
- 口禪定尼 J 田
- 不 詳 I 田
- 不 詳 H 田
- 不 詳 G △
- 瓊林院殿 G △
- 元亨院殿 F △
- 高源院殿 E 田
- 龍光院殿 D 田
- 八名含葬 C 田
- 黒川氏 B 田
- 清涼院殿 A △

- ⑭ 泰俊院殿 諏訪忠恕 22 嘉永
- ⑮ 慶安 盛光院殿 諏訪忠恒 女延
- ⑯ 延宝 未詳 淨運院殿
- ⑰ 貞松院殿 諏訪賴水室 3 寛永
- ⑱ 頼岳寺殿 諏訪賴水 4 寛永
- ⑲ 理昌院殿 諏訪頼忠室 2 寛永
- ⑳ 永明寺殿 諏訪頼忠 1 慶長
- ㉑ 放光院殿 諏訪忠爾 19 文政
- ㉒ 真操院殿 諏訪忠爾室 20 天保
- ⑲ 眞鏡院殿 貞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ⑳ 養賢院殿 諏訪忠林 17 明和
- ㉑ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ⑳ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㉑ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㉒ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㉓ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㉔ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㉕ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㉖ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㉗ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㉘ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㉙ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㉚ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㉛ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㉜ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㉝ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㉞ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㉟ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㊱ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㊲ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㊳ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㊴ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㊵ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㊶ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㊷ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㊸ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㊹ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㊺ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㊻ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㊼ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㊽ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㊾ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保
- ㊿ 眞鏡院殿 眞鏡院殿 諏訪忠誠室 21 天保



前三列は高島藩主諏訪家の五輪塔である。後列の小型の塔婆は、小沢家・諏訪頼細家のものであり、分家の諏訪家のものと思われるが、なお厳密な検討が必要である。

田 五輪塔  
△ 舟形石塔  
田 角形石塔

### 高野山奥の院諏訪家墓地墓碑配置図

『高島藩邸と諏訪氏一族』 174頁より

# 高野山奥の院墓地の藩主諏訪家の墓碑一覧

No.は墓碑配置図のNo.

法名	俗名・続柄等	命日	石塔建立年月日	石塔奉行	No.
頼重院殿一氣道洪大居士	諏訪頼重	御石塔不相知	御石塔不相知	不相知	?
永明寺殿光山宗湖庵主	諏訪頼忠	慶長 10. 8.11	慶長 10. 8.11 立	不相知	20
頼岳寺殿吳窓映林大居士	諏訪頼水	寛永 18. 1.14	寛永 18. 1.14 立	小澤主膳	18
天久院殿一寶要関大居士	諏訪忠恒	明暦 3. 1. 5	明暦 3. 5.15 立	茅野十郎兵衛	9
乾龍院殿雄巖文穎大居士	諏訪忠晴	元禄 8. 3. 2	元禄 8. 7. 2 立	赤沼七郎左衛門	7
洞虎院殿彰住闍幽大居士	諏訪忠虎	享保 16. 7. 2	享保 17. 7. 立	近藤宇左衛門	4
養賢院殿聖懿諦範大居士	諏訪忠林	明和 7. 5.27	明和 8. 6. 立	諏訪銀之進	11
観光院殿天倫宗澤大居士	諏訪忠厚	文化 9. 6.17	文化 10. 5. 立	久保島平左衛門	6
放光院殿普照道德大居士	諏訪忠肅	文政 5. 6.28	文政 6. 4.28 立	大熊郡右衛門	21
泰俊院殿徳海義山大居士	諏訪忠恕	嘉永 4. 5. 1	嘉永 5. 3. 8 立	中島刑部左衛門	14
理昌院殿玉栄貞珠大姉	諏訪頼忠室	寛永 4. 9. 2	寛永 4. 9. 2 立	不相知	19
貞松院殿興岳英隆大姉	諏訪頼水室	正保 2.10. 7	寛永 5.11.18 立	小松五郎左衛門	17
月江院殿心岳清鑑大禪定尼	諏訪忠恒室	寛文 9. 2.14	寛文 9. 3.18 立	大熊半之允	8
長春院殿空室韶華大姉	諏訪忠晴室	正徳 2. 9. 9	正徳 3. 3.27 立	鶴飼伝右衛門	1
玄珠院殿勝光如璨大姉	諏訪忠虎室	元禄 16. 8. 4	享保 2. 9. 4 立	矢島伝左衛門	2
雲台院殿靈光慈薫大姉	諏訪忠林室	寛保 3.11. 7	延享 1. 4. 立	鶴飼伝右衛門	5
真操院殿成圃理貞大姉	諏訪忠肅室	天保 2.11.12	天保 3. 4.13 立	三輪五郎右衛門	22
貞鏡院殿月津浄照大姉	諏訪忠誠室	天保 13. 7.11	天保 14.4.21	安間五左衛門	12
瓊芳院殿淡粧幽艶大姉	諏訪忠誠室	文久 2. 8.	なし	なし	無
永高院殿天心日誠大姉	諏訪忠晴母	天和 3. 1. 1	明暦 3. 5.15	茅野十郎兵衛	13
盛光院殿深元大姉	諏訪忠恒女・延	慶安 4. 1.24	慶安 4. 4.24	横関与惣右衛門	16
景耀院殿靈淵空恵大居士	諏訪忠虎男 忠尋	享保 2. 4.23	享保 2. 9. 5 立	矢島伝左衛門	3
蘭香院殿妙峰仁秀童子	諏訪忠林嫡男忠倫	延享 4. 8.16	寛延 1. 8.14	栗田紋太夫	10
浄蓮院殿眞源恵姓大姉	未詳	未詳	延宝 6. 7. 2	不相知	15

「諏訪家御記譜」(安間家文書。諏訪市教育委員会所蔵)から作成。

あとがき

温泉寺の諏訪家廟所は、昭和四十五年(一九七〇年)に、諏訪市教育委員会により調査されその成果は、「諏訪市文化財調査報告書」にまとめられている。廟所は、その調査を基にして翌年市指定文化財となった。今回の平成十一年の調査では、以前の調査結果に基づき石燈籠の銘文等を出来る限りそのまま記録し詳細に検討を加えた。

具体的には平成十一年九月二十八・二十九日に廟所の墓碑・石燈籠間の距離を測定し廟所の平面図を作成し、それを用い墓碑・石燈籠にNo.を付した。平成十一年十一月九日には、作成した図面を利用して、石燈籠個々の銘文の現地調査を行った。銘文の調査は労力を要するため当日の調査には、諏訪市博物館友の会有志十二名のみなさんのご協力をいただき、スムーズに調査が出来た。その後随時補足調査を行った。銘に旧字体・異体字が使用されており、かつ碑面が摩耗していたため調査には苦労した。この冊子は、以上の調査結果をまとめたものである。

信州高島藩諏訪家廟所

西曆二〇〇〇年三月二十六日

印刷

西曆二〇〇〇年三月二十七日

発行

編集 諏訪市教育委員会

〒三九二―八五一―

諏訪市高島一丁目二三番三〇号

☎〇二六六(五二)四一四一番

発行 諏訪市教育委員会

〒三九二―八五一―

諏訪市高島一丁目二三番三〇号

☎〇二六六(五二)四一四一番



